

# 2015年12月期 決算説明資料

サイオステクノロジー株式会社

(東証二部 : 3744)

2016年2月2日



- I 2015年12月期 決算概要**
- II 2015年12月期の取り組み**
- III 中期損益計画および通期業績予想**

# I 2015年12月期 決算概要



# 2015年12月期 決算概要

売上高 9,362百万円 (前年同期比**27.1%**増)

- 2015年4月から子会社化した株式会社キーポート・ソリューションズ（以下、KPS）の売上が加わったことで**大幅な増収**
- 当社主力製品のひとつである「LifeKeeper<sup>\*</sup>」は**全地域で順調な増収**
- MFP向けソフトウェア<sup>\*</sup>製品が**順調な増収**
- Red Hat, Inc. 関連商品は**順調な増収**、OSS<sup>\*</sup>関連商品は**好調な増収**

営業損失 111百万円 (前年同期は営業利益65百万円)

EBITDA △45百万円 (前年同期は125百万円)

※EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額

- 研究開発への積極投資により研究開発費が648百万円（前年同期比**29.1%増**）と増加

※ 「\*」を付した用語につきましては、28ページに解説を記載しております。

# 2015年12月期 業績（連結）

単位：百万円	14年12月期 実績	15年12月期 実績	差額	前年同期比
売上高	7,367	9,362	+1,994	+27.1%
売上総利益	2,878	3,351	+472	+16.4%
営業利益	65	△ 111	△ 177	-
経常利益	81	△ 127	△ 208	-
当期純利益	39	△ 179	△ 218	-
EBITDA	125	△ 45	△ 171	-
(連結従業員数)	248名	458名	+ 210名	+84.7%

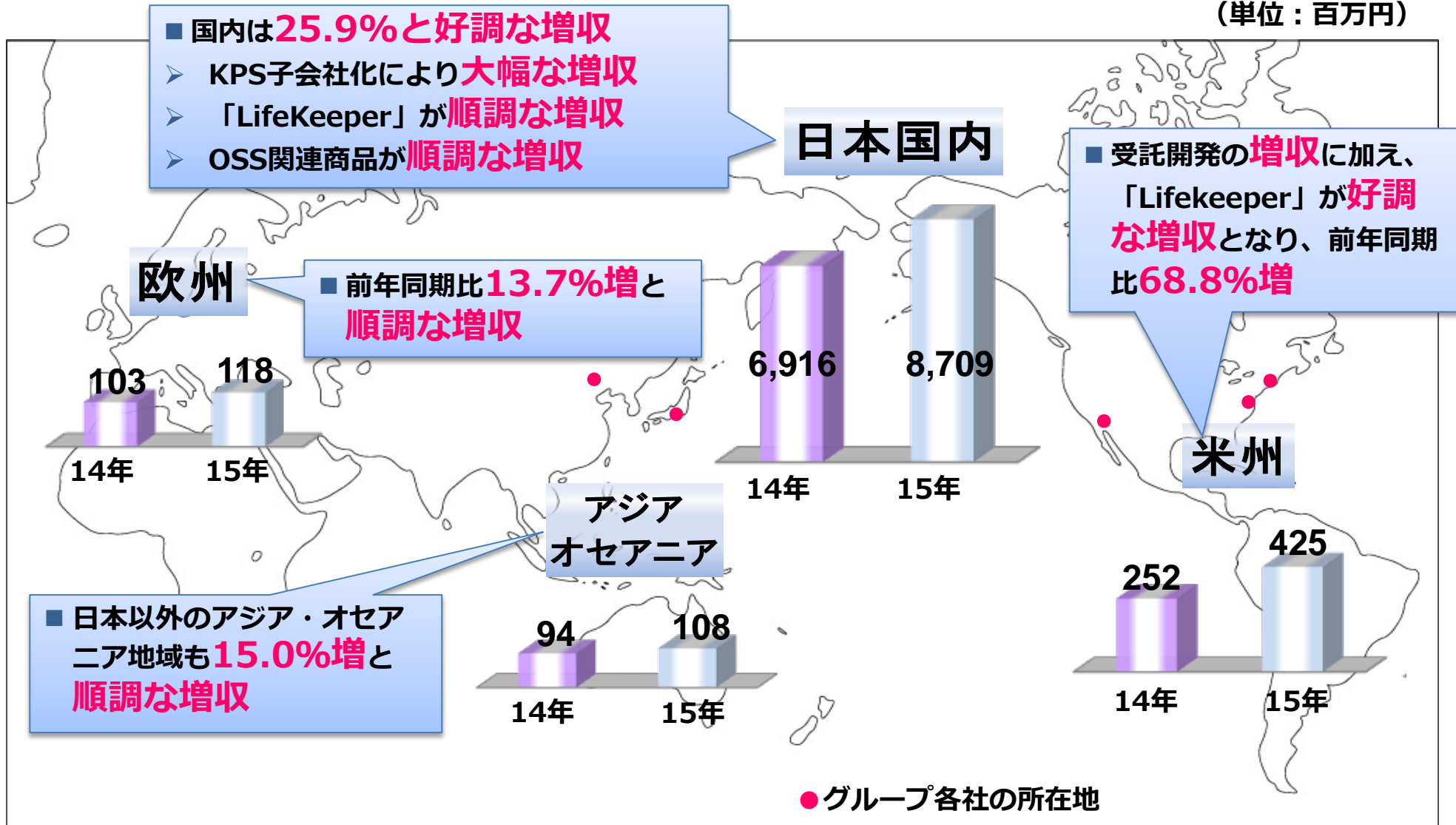
- 2015年4月にKPS、同年10月にProfit Cube株式会社を子会社化したことにより、連結従業員数は**450名の体制**へ

※EBITDA・・・営業利益+減価償却費+のれん償却額

※社員数は、期末時点での正社員と派遣社員および契約社員の年間平均人員の合計

# 地域別売上高の状況

(単位：百万円)



※ 1ドル当たり14年は105.79円、15年は121.11円で換算

# 2015年12月期 貸借対照表（連結）

## 【財政状態】

単位：百万円	2014年 12月末	2015年 12月末	増減
<b>流動資産合計</b>	<b>3,251</b>	<b>3,901</b>	<b>+650</b>
（現金・預金）	1,982	2,206	+224
（売掛金、その他）	1,268	1,694	+425
<b>固定資産合計</b>	<b>400</b>	<b>1,741</b>	<b>+1,340</b>
<b>資産合計</b>	<b>3,651</b>	<b>5,642</b>	<b>+1,990</b>
<b>流動負債合計</b>	<b>1,783</b>	<b>2,872</b>	<b>+1,088</b>
<b>固定負債合計</b>	<b>134</b>	<b>1,230</b>	<b>+1,096</b>
<b>負債合計</b>	<b>1,918</b>	<b>4,102</b>	<b>+2,184</b>
<b>純資産合計</b>	<b>1,733</b>	<b>1,539</b>	<b>△ 193</b>
（自己株式）	△ 119	△ 116	+3
（為替換算調整勘定）	△ 144	△ 143	+0
<b>負債純資産合計</b>	<b>3,651</b>	<b>5,642</b>	<b>+1,990</b>

- **現金・預金 224百万円増加**
- **手元資金は約22億円（成長戦略を加速するための潤沢な資金）**
- **固定資産 1,340百万円増加**
- のれんの増加831百万円、投資有価証券の増加190百万円等
- **流動負債 1,088百万円増加**
- 買掛金の増加193百万円、短期借入の増加392百万円等
- **固定負債 1,096百万円増加**
- 子会社株式取得資金を金融機関から調達
- **純資産193百万円減少**
- 当期純損失179百万円、配当金の支払い42百万円等

# 2015年12月期 キャッシュ・フロー（連結）

単位：百万円	14年12月期	15年12月期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	401	168	△ 232
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 223	△ 996	△ 773
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 145	988	+1,133
現金及び現金同等物に係る換算差額	116	1	△ 115
現金及び現金同等物の増減額	149	162	+13
現金及び現金同等物の期末残高	1,882	2,045	+163

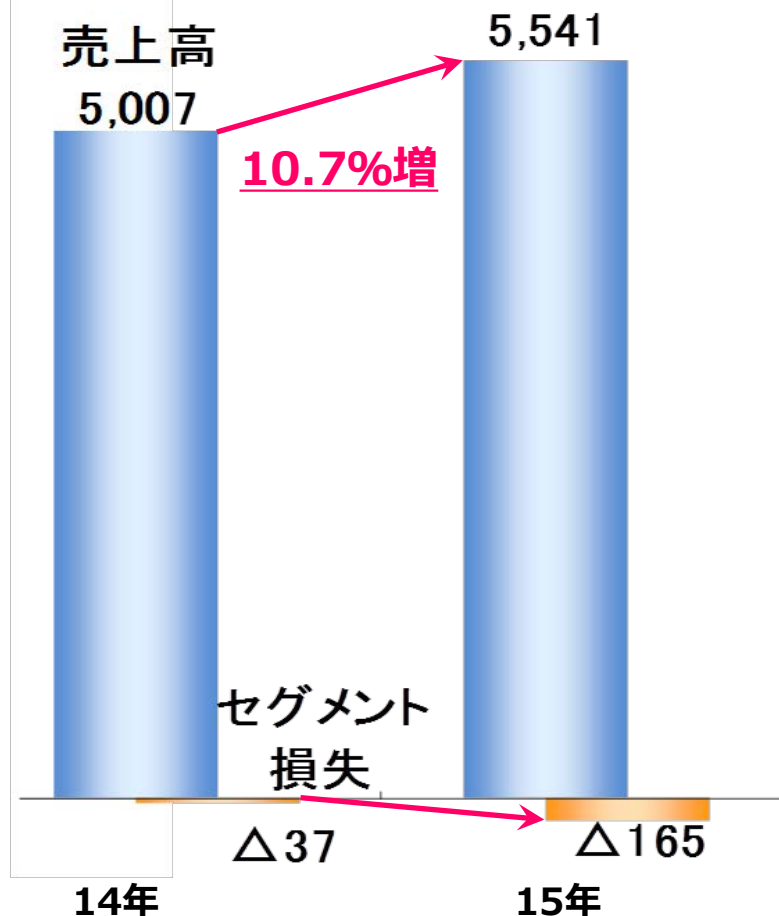
- **営業活動によるキャッシュ・フロー 168百万円**
  - 税金等調整前当期純損失145百万円、減価償却費59百万円、仕入債務の増加額99百万円等
- **投資活動によるキャッシュ・フロー △996百万円**
  - 子会社株式等の取得による支出951百万円等
- **財務活動によるキャッシュ・フロー 988百万円**
  - 長期借入れによる収入1,060百万円、配当金の支払額42百万円等



# オープンシステム基盤事業

売上高 5,541百万円 (前年同期比 10.7%増)  
セグメント損失 165百万円 (前年同期は損失37百万円)

[百万円]



## 売上高

[国内]

- 当社主力製品の「LifeKeeper」は順調な増収
  - OSS サポートサービスやOSS関連商品が好調な増収
  - Red Hat, Inc.関連商品の販売は順調な増収
- [海外]
- 米州、欧州、アジア・オセアニア地域が順調な増収

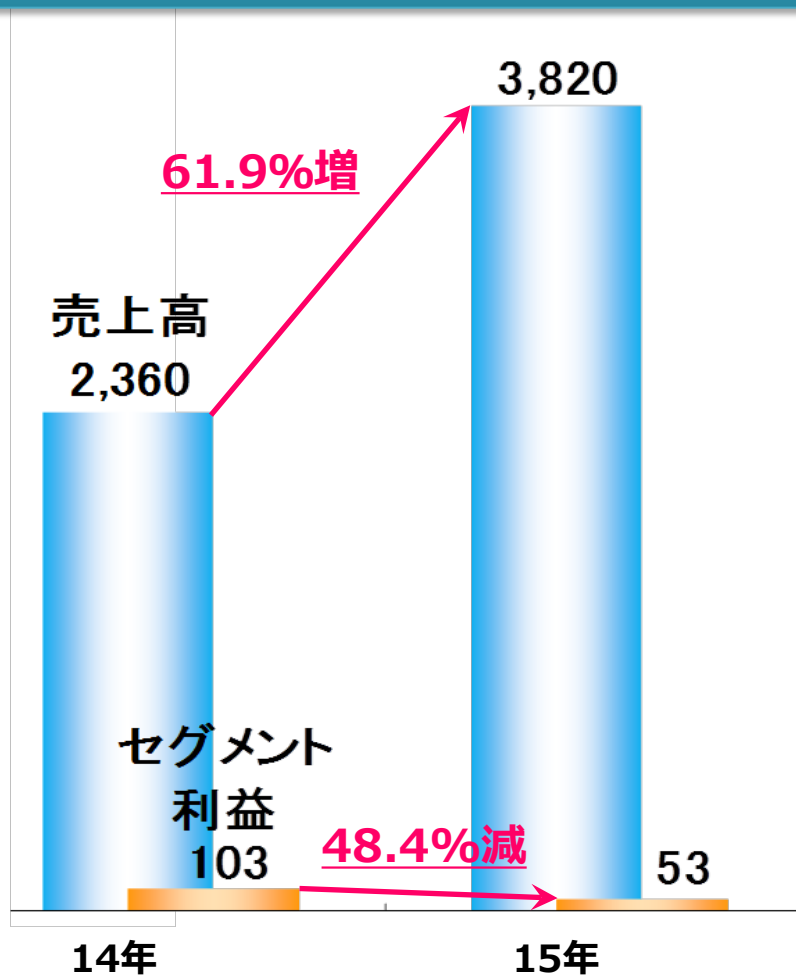
## セグメント損失

- 機械学習技術への研究開発投資を行った (その成果の第一弾として、IT運用分析\*ソフトウェア「SIOS iQ\*」を発売)

# Webアプリケーション事業

売上高 3,820百万円 (前年同期比 61.9%増)  
セグメント利益 53百万円 (前年同期比 48.4%減)

[百万円]



## 売上高

- KPS子会社化により**大幅な増収**
- MFP向けソフトウェア製品が**順調な増収**
- Google Apps連携のSaaS\*「Gluegentシリーズ\*」は**順調な増収**

## セグメント利益

- MFP向けソフトウェア製品や「Gluegentシリーズ」の機能強化に積極的に研究開発投資を行った

## Ⅱ 2015年12月期の取り組み



1

**継続的な研究開発投資**

2

**新たな事業創出（M&A含む）**

3

**コアビジネスの競争力強化**

1

継続的な研究開発投資

2

新たな事業創出（M&A含む）

3

コアビジネスの競争力強化

# 1. 研究開発投資の成果

## 「継続的な研究開発投資」として 機械学習技術\*への開発に注力

投資成果  
の第一弾

### SIOS iQ



- 企業の仮想化システムの運用を支援
- 問題発生時に根本原因と影響範囲の分析を完全自動化し、解決策を提案
- 使いやすいインターフェース

機械学習技術を活用したIT運用分析ソフトウェア  
「SIOS iQ」を2015年7月に米国および国内にて発売

# 1. 研究開発投資の成果

## 「SIOS iQ」がトレンドマイクロ株式会社に採用

### 「SIOS iQ」採用前

トレンドマイクロ社は、システムのパフォーマンス問題が発生した場合、原因を見つけるために複数の分析ツールを駆使し、各技術分野の専門家を招集して、分析を行っていた。

### 「SIOS iQ」採用後

「SIOS iQ」を採用したことにより、パフォーマンス問題の原因分析を自動化し、根本原因の早期発見・改善が可能となり、システム管理の効率化を実現しただけでなく、サービスの信頼性を向上した。

1

継続的な研究開発投資

2

新たな事業創出（M&A含む）

3

コアビジネスの競争力強化



## 2. M&Aの成果（新たな事業創出）

2015年4月、主に金融機関向けにアプリケーション開発等を行う株式会社キーポート・ソリューションズ（以下、KPS）を子会社化

2015年10月、金融機関向けALMシステム\*の開発・販売・保守を行うProfit Cube株式会社（以下、PCI）を子会社化

大きな成長が期待されるFintech\*領域に新しい製品・サービスを投入する体制を整えた

今後、KPSとPCIを通じて、Fintech領域において新たな製品・サービスの提供を目指す

## 2. M&Aの成果（新たな事業創出）

キーポート・ソリューションズ（以下、KPS）は、優れた技術をベースに主に金融機関向けにアプリケーション開発等を行い、投資情報サイト等も提供

### ■ KPSの概要



名称	株式会社キーポート・ソリューションズ
所在地	東京都中央区新川1-28-38
代表者	代表取締役 森田 昇
資本金	232百万円
設立	1999年6月
出資比率	当社96.7%， その他3.3%
決算	売上高1,303百万円、経常利益136百万円、当期純利益144百万円（2014年3月期）

### KPSの製品・サービス



\* ストレスチェックソフトウェア



\* IT業務プロセス管理ソフトウェア



\* 投資学習サイト



\* Webアクセス解析ソフトウェア

（提供製品・サービスの一例です）

## 2. M&Aの成果（新たな事業の創出）

Profit Cube（以下、PCI）は、金融機関向けに資産・負債リスク管理を行うALMシステムの開発・販売等を行い、金融機関に対して高度な運用支援・コンサルティングを提供

### ■ PCIの概要



名称	Profit Cube株式会社
所在地	東京都品川区東品川2-2-20
代表者	代表取締役 近藤 進一
資本金	380百万円
設立	1982年8月
出資比率	当社100.0%
決算	売上高1,127百万円、経常利益56百万円、 当期純利益47百万円（2015年6月期）

### PCIの製品・サービス

#### Vivaldi

\* 金融機関向け経営管理ソフトウェア



\* 有価証券管理ソフトウェア

#### e-Acris

\* 統合与信管理ソフトウェア

（提供製品・サービスの一例です）

1

継続的な研究開発投資

2

新たな事業創出（M&A含む）

3

**コアビジネスの競争力強化**

# 3. コアビジネスの競争力強化

2015年9月に「LifeKeeper for Linux v9」販売開始、  
企業の多様なクラウド\*環境への要望を実現

## クラウド環境下における要望

- 競争激化によるビジネス・スピードアップへの要求
- ビジネスのグローバル化への対応
- システムの信頼性に対する要求の高まり…等

## バージョンアップにより実現

- 同じ構成のサーバーを短時間で大量に複製
- エンジニアの利便性・作業効率の向上
- 海外での迅速なインフラ構築も可能に

## 「LifeKeeper for Linux v9」の新機能

3年4ヵ月ぶりの  
メジャーバージョンアップ



- サーバー環境構築時に利用可能な自動構成管理等の機能追加
- コマンドラインによる命令実行機能の強化
- 仮想化プラットフォーム（VMware vSphere）最新版への対応

# 3. コアビジネスの競争力強化

## MFP（複合複写機）向けアプリケーション「QuickスキャンV4」の機能拡張、提供開始

- 名刺や書類等の紙媒体をデジタルデータ化、業務効率化を推進



大型フルカラータッチパネルで、より使いやすいように強化・改良

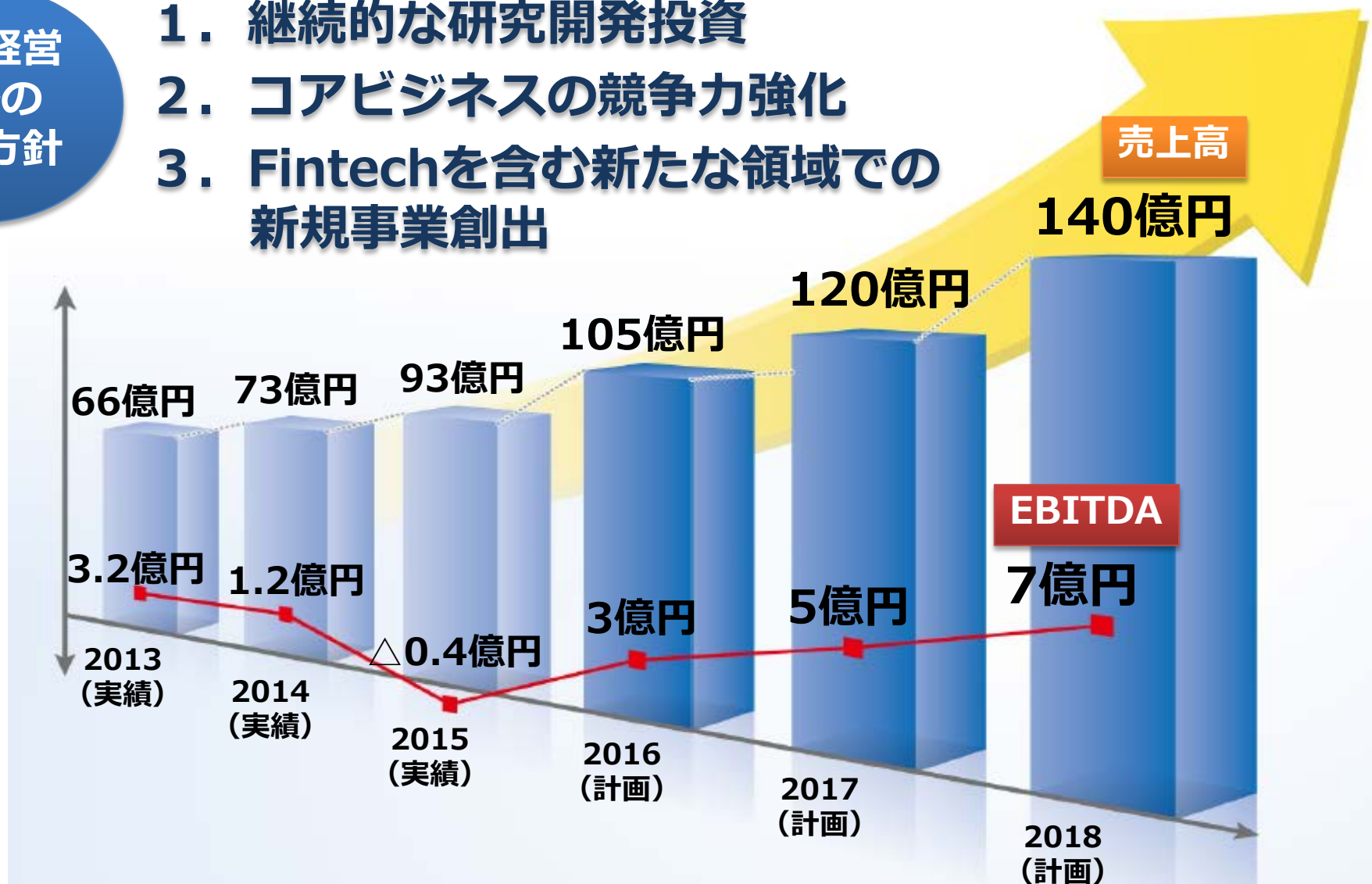
オフィス内の紙媒体情報をデジタル管理することにより効率的で安全な運用サポート

## Ⅲ 中期損益計画および通期業績予想

# 中期損益計画について

中期経営  
戦略の  
基本方針

1. 継続的な研究開発投資
2. コアビジネスの競争力強化
3. Fintechを含む新たな領域での新規事業創出





# 2016年12月期 通期業績予想

- 売上高は **105** 億円、**2** 桁以上の高い成長、**6** 期連続増収を計画
- グループ間の連携強化による合理化を推進、利益率の高い自社製品比重の向上等により**黒字化**を見込む
- 積極的な研究開発投資を継続、**Fintech領域を含む新たな製品・サービスの提供**を目指す
- 次期の研究開発費の総額は**880百万円（前年同期比35.8%増）**を計画

単位：百万円	15年12月期 実績	16年12月期 通期予想	増減額	増減率
売上高	9,362	10,500	+1,138	+12.1%
営業利益	△ 111	140	+251	—
経常利益	△ 127	100	+227	—
当期純利益	△ 179	50	+229	—
EBITDA	△ 45	300	+345	—

# 当期・次期の配当

## ■ 当期配当予定（2015年12月期）

- 当期は2015年2月2日に公表しましたとおり、利益配当を実施せず、研究開発活動を優先的に行い、中期経営計画の実現を目指しました。

## ■ 次期配当予想（2016年12月期）

- 次期は親会社株主に帰属する当期純利益を計上予定であるものの、将来の更なる成長に向けた研究開発等への先行投資を優先的に行いたく、無配とさせていただきたく存じます。

	第17期 2013年12月期 (前々期)	第18期 2014年12月期 (前期)	第19期 2015年12月期 (当期予定)	第20期 2016年12月期 (次期予想)
年間配当	5.00円	5.00円	0.00円	0.00円

当社は、2004年8月に東京証券取引所マザーズに上場し、2015年5月1日をもって、  
**東京証券取引所第二部**に  
市場変更しました。



今後も皆様のご期待にお応えできるよう、更なる業容の拡大と企業価値の向上に努めてまいりますので、引き続きご指導とご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

## SIOS is Innovative Open Solutions

当社は、Linuxに代表されるオープンソースソフトウェアの開発と利用を軸に、OS（基本ソフトウェア）、サーバー、Webアプリケーション、クラウドコンピューティング、ビッグデータに関わるソフトウェア製品とサービスの提供を行っています。直近では急速に進展するITインフラ仮想化を支えるため、機械学習機能を搭載したIT運用分析ソフトウェアSIOS iQを開発し、提供を開始しました。

これからも革新的なソフトウェア技術を追求し、世界のIT産業に影響力のある存在、「インフルエンサー」となって価値を創造し、社会の発展に貢献してまいります。



本 社	東京都港区南麻布2-12-3 サイオスビル
-----	-----------------------

資 本 金	1,481百万円
-------	----------

設 立	1997年5月23日
-----	------------

社 員 数	連結458名（2015年12月31日現在）
-------	-----------------------

連 結 子 会 社	SIOS Technology Corp.（米）、賽欧思（北京）科技（中）、グルーエージェント（日）、関心空間（日）、Gladio,Inc.（米）、キーポート・ソリューションズ（日）、Profit Cube（日）
-----------	--

頁	用語	説明
3	LifeKeeper	本番稼働のサーバーとは別に同じ環境の予備サーバーを待機させ、万が一の障害の際には自動的に予備サーバーに業務を引き継がせる役割を担うソフトウェア。
3	MFP向けソフトウェア製品	プリンタ、スキャナー、コピー、FAX等複数の機能を搭載した機器をMFP(Multi Function Peripheralの略)という。MFP上で利用できる文書管理ソフトウェア「Quickスキャン」等の開発・販売・保守。
3	OSS( オープンソースソフトウェア)	ソフトウェアの設計図にあたるソースコードを無償で公開し、使用・改良・再配布ができるソフトウェア。
8	IT運用分析	IT運用で発生するデータを分析し、実用的で分かりやすい情報へと変換するもの。
8	SIOS iQ	仮想及びクラウド環境においてアプリケーションの稼働状況を包括的に監視・分析・最適化し、パフォーマンスや効率性の向上、信頼性保護を図り、複雑な課題を解決する製品。
9	SaaS	ソフトウェアをインターネットなどを通じて提供し、利用者が必要なものを 必要なときに呼び出して使うサービス。
9	Gluegentシリーズ	社内のワークフローをクラウド化する「Gluegent Flow」をはじめ、Google Calenderにチームメンバーの予定管理機能を付加した「Gluegent Apps グループスケジューラー」等、企業におけるクラウドを利用した業務効率化を支援するサービス。
13	機械学習技術	人間が行っている学習能力と同様の機能をコンピュータで実現しようとする技術、さまざまなデータから有益な情報を発掘するもの。
16	ALMシステム	金融機関の資産・負債等のリスク管理を行うシステム。
16	Fintech (フィンテック)	Finance (金融) とTechnology (技術) の融合による新たなテクノロジーのこと。
20	クラウド	コンピュータ処理をインターネット経由で、サービスとして利用できる新しいコンピュータの利用形態。

## ご留意事項

業績予想につきましては、現在入手している情報に基づいた当社の判断であり、不確定要素を含んでおります。実際の業績は、様々な要素により業績見通しとは異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を与え得る重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向などが含まれております。但し、業績に影響を与え得る要素は、これらに限定されるものではありません。

## 本件に関するお問い合わせ

サイオステクノロジー (IR)

Tel : 03-6401-5111 (代表)

Webによる場合はこちらからお問い合わせください

→[https://lp.sios.jp/MRK\\_Inquiry\\_IR.html](https://lp.sios.jp/MRK_Inquiry_IR.html)



SIOS